第1606号
11
2018年
ISSN 0039-4866

水産総合月刊誌 明治25年9月26日第三種郵便物認可　平成30年10月25日印刷納本
平成30年11月1日発行（毎月1回1日発行　第1606号）

水産界

◇ICFA年次総会及びFAOとの意見交換会
◇水産政策改革について

都内さんま祭り盛況〈目黒駅前（左上、下）、目黒公園（右上）、東京タワー（右下）〉

「食にまつわる55の不都合な真実」
—わかりやすい解説で読み解く、日本の食の「今」
＝ディスカヴァー・トゥエンティワン刊＝

帯に「日本人の40代男性は34.6%が肥満」「小学生の約5%がアレルギー体質？」と怖い文言が躍る。著者は、食環境ジャーナリストの金丸弘美氏。農漁業従事者は高齢化が進み、農水産物の将来が危ぶまれている。海外から食料輸入が止まれば、食べ物は簡単に手に入らなくなる、そのことを知ってもらいたい、と本書をまとめた。

①食と健康②日本人の食生活③食の安全④食料自給率⑤日本の農業－について、それぞれクライシスな事実を掲げた。③では「海に流れ込むプラスチックは年間800万ﾄﾝ」、④では「日本の漁獲量はピーク時の3分の1」「瀬戸内海の藻場7割も激減」など、全てデータに基づき、わかりやすく解説されている。

新書判、1冊1000円（税別）

「船長の肩振り　続・続編」
＝ムーンファクトリー刊＝

著者は田中善治氏。続・続編とあるように、同氏3冊目のエッセイ集。日鐵汽船（現・NSユナイテッド海運㈱）の元船長であり、陸にあがってからは、船員の福祉向上などに尽力する傍ら、講演、執筆活動を通じて、一般の人はなかなか知ることができない船上の仕事、船員の苦労、娯楽、海で働く喜びなどを伝えてきた。

本誌でも、平成26年から2年間にわたり、エッセイを連載。本書は、これをベースにまとめられた。既刊2冊は海上生活の悲喜交々を綴ったが、今回は海に限らず、時々の世相の中で都度考えるところや、海外旅行紀行を加えた。全31編。1冊1000円（税別）

「今日のおでんが元気とキレイを作る！」
—おでんの主役はかまぼこ・練り物—
＝三省堂／創英社刊＝

著者はシーフードジャーナリストの鈴木海央氏。

主役の水産練り製品の魅力がこの一冊に詰め込まれている。おでんは脇役の具材たちとコラボした和食の傑作。おさかなの栄養の宝庫、かまぼこ・練り物は日本の伝統的郷土食。世界に誇るこの食文化を見直そう、と魚食の普及の一環として訴えている。

大日本水産会白須敏朗会長はじめ、崎陽軒野並直文社長、山安山田義征社長へのインタビューも掲載されている。1冊1500円（税別）。